

## 令和6年度 事業計画書

令和5年度は10月以降に献眼が集中し、令和6年2月までの献眼者数は5名、摘出眼球7眼となり、前年度の4名5眼を上回ってはいますが、待機している多くの角膜移植希望者（レシピエント）に希望の光を贈るためには、さらなる献眼意識を高める活動が必要です。

財務に関しては、角膜あっせん手数料だけではアイバンク事業を運営することは難しく、今後も収入の70%以上を占める賛助会費、協賛広告、募金箱、支援自動販売機、バナー広告などの寄附金収入に頼らざるを得ません。特に最も大きな財源の賛助会費を増やすことが、安定した財源の確保につながるため、新規会員募集に注力いたします。

令和6年度事業計画の具体的な施策は下記のとおりです。

### 記

#### 1. 献眼者の増加を図るための活動

- (1) 臓器移植院内コーディネーターが設置されている県内15か所の主要医療機関に対し献眼への協力を依頼する。
- (2) 脳死判定による献眼実績のある愛媛県臓器移植支援センターとの連携を継続する。
- (3) 平成25年から協力していただいている愛媛大学白菊会との連携を強化し、献眼者の増加を図る。
- (4) 在宅医療支援センターへ働きかけ、在宅医のACP（アドバンス・ケア・プランニング）作成時に角膜提供の意思確認を依頼する。

#### 2. 献眼についての理解を深めていただくための活動

- (1) 年1回発行している情報誌「愛媛アイバンクだより」の内容を充実させる。
- (2) ライオンズクラブと協賛し「献眼推進セミナー」「献眼登録キャンペーン」の実施により、アイバンクの役割と献眼の必要性を説明する。
- (3) 新規献眼登録者には、献眼時の注意事項を記載した「献眼についてのQ&A」を送付し、理解を深めていただく。
- (4) 医療機関等に、情報誌「愛媛アイバンクだより」、リーフレット「献眼登録のお願い」の設置を積極的に依頼する。

#### 3. 運営基盤の強化

- (1) 基本財産については、リスクを抑えつつ最適な運用に努める。
- (2) 「愛媛アイバンクだより」への協賛広告、ホームページへのバナー広告により、広告収入の増加を図る。
- (3) 賛助会員の新規開拓・未納者減少に努めるとともに、「寄附金の税制優遇措置」制度の周知を図る。
- (4) 新規開業先等への「募金箱」設置を積極的に依頼する。

以上